Messiah of Magician

武柴　敦斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｍｅｓｓｉａｈ　ｏｆ　Ｍａｇｉｃｉａｎ

【Ｎコード】
Ｎ３８５５Ｚ

【作者名】
武柴　敦斗

【あらすじ】
授業以外に勉強する必要がないくらいの天才主人公は、勉強以外はまるでだめだった
それでも楽しく毎日を過ごしていた

あの日・・・神社に行くまでは……

第1話：日常（前書き）

私の処女作ですので、まだまだ拙い文章ですが、よろしくお願いします

第1話：日常

夏が終わり、中学三年生は受験勉強のために部活を引退した
だが俺、小鳥遊（たかなし）天（そら）はこの肌寒い季節になっても、毎日文芸部の部室に顔を出している

俺は、一年からずっと文芸部に所属していて、文才もそこそこあるほうだ
二年の時には、『天空の人ラキュタ』を書き上げた

俺は最近聞いたんだが、先生がいつの間にか小説投稿サイトに投稿していて、かなり有名になっているらしい
出版の話をもちかけられたが、もちろん断った
あまり目立ちたくないのだ

そして今俺は、暇つぶｓ・・・じゃなく活動として『ソラ文字』なるものを作っていて、周りにはこれが完成したら引退すると言ってある
もちろん引退する気はないが

「勉強しろよ」とは言われるものの、正直する気はない
というかする必要が無い
勉強をしなくても、授業さえしっかり聞いていれば覚えられるからだ
自分で言うのもなんだが、多分俺は天才なんだと思う

ただ、勉強に関してだけだ！

運動はもちろんの事、芸術や歌、ゲームなどの遊びに至るまで、勉強以外はまるで才能がないのだ

例を挙げると、５０m走が9、８秒だったり

犬の絵を描いたのに、先生に「真面目に描いて下さい、今は動物の絵を描く時間ですよ！蛇口を描いてどうするんですか！」と怒られたりと、言い出したらきりがない

そして今日も、一日が始まった

教室に入り、真ん中の列の一番前という最悪の席に着く

俺は運が悪く、くじで席を決めると必ず一番前の列なのだ

（隣があの人じゃなかったら・・・キレてるな）

毎朝席に着くたびにそう思っている

あの人が誰とは言えない

いつも通りのことを考えていると

「ソラおはよう」

蓮（れん）の声がした

十六夜（いざよい）　蓮（れん）、俺の中一の時からの友人だ

こいつと、隣のクラスの黒金（くろがね）　隼人（はやと）とは仲がいい
二人とも数少ない俺の友人だ

小学校の頃からあまり目立たない俺は、友達といえる人が少ない
それに蓮と隼人は同じ小学校なのだが、俺だけ違うから登下校は別々だ

「おはよう」と返事をすると、俺たちは隼人としゃべるために廊下に出た

放課はいつも廊下でしゃべっている

チャイムぎりぎりまでしゃべって、俺たちは教室に戻る

席に着くと、毎日隣の席にいるあの人に声をかけようと思う
思うだけで終わりだが

授業はノートをとるものの、成績のためだけだ
復習なんてしない
話をしっかり聞いて覚える

家で勉強する必要など俺にはないのだ

蓮と隼人にこの事を話したときは疑われたが、毎日一緒に遊んでいたら、学年順位に１００番ほど差ができた
（学年全員で１８８人いる）

俺は普通に一桁だった
蓮、隼人は三桁だった

そんなこんなで昼休みになり、食堂は席が自由なので、三人で昼飯を取る

午後の授業が終わり、放課後になる

掃除を終わらせ、二人と少ししゃべってから文芸部の部室に向かう

俺は部活の邪魔をしないように、部室のはじのほうに座って、『ソラ文字』の作成の続きをする

いや、ういている訳じゃないよ
むしろ尊敬されている
尊敬されているだけで、モテる訳ではないのだが

『ソラ文字』も、ワ行まで出来ているから、あとは拗音、促音、濁音、半濁音を決めれば完成だ
あと2、3日で完成だな

そんな生活を、暑さのピークが過ぎ、同級生が部活に参加しなくなってきた時期から続けている

このまま普通に高校に行き、高校でも楽しく過ごし、そこそこの大学に行って、作家とかになって、温かい家庭を築ければ、俺は死ぬときいい人生だったと思えるだろう

でも中学生のうちにあの人に・・・無理か……

俺目立たないし、あの人かわいいし・・・

普通に過ごせればいいや・・・

第1話：日常（後書き）

これから月・水・金の深夜0時に投稿予定ですので、あまり更新スピードは速くありませんが、よろしくお願いします

第２話：神社（前書き）

これからも２４時丁度に更新できないことが、多々あると思います

すみません

第2話：神社

ここ三日間
いつも通りの日常が過ぎていた

だがその後、久しぶりに大きな出来事があった
ずいぶんと長い時間をかけ
いつも頭の中ではそのことを考えていて
部活中は目を奪われ続けていた
だけどなかなか近づけなかった
だが遂に
『ソラ文字』が完成した
ひらがなと同じくらいすらすら書けるようになった

正直あんまり意味も、目的もない
だが、達成感が半端じゃない
虚しさも半端じゃない

だいたい、俺しか使えなかったら意味ないし

しょうがないから、未来の俺に手紙を書いてみた
内容は恥ずかしいから秘密だ

その次の日、悪いＮＥＷＳもあった
黒金（くろがね）　隼人（はやと）とあの人と付き合っているという噂があるのだ

本人（隼人）は否定しているが・・・

確かに俺たち三人の中では隼人が一番かっこいし、運動もできる、
面白いことも言えるし、気さくだ

でも・・・
あまり知られていないが
すごいアニメオタクだ

蓮も俺も、自分で言うのはなんだが、顔は悪くない方だと思っている
だが、オタク趣味を知られていない隼人には勝ち目がない
そしてあいつのオタク趣味は俺ら二人とその家族しか知らない

つまりはあいつには勉強以外では勝てないのだ

だから、あいつのそういう面をばらそうとしたが、友情と俺の性格のせいで、無理だった

この二つの大きな出来事が連続して起こった・・・
どう考えてもショックの方が大きかった

気休めにはなるだろう、ということで
俺は蓮と一緒に、俺の家の近くにある神社に行き、合格祈願をしたついでに恋愛成就もした……あくまでもついでだ

でも、隼人は否定してたし、可能性が無いこともなくないか??
きっとあるはずだ
神社に来て、多少そう思えるようになった

（消えかけの達成感＋増加していく虚しさ）＋弱まった（悲しさ＋羨ましさ）
このごちゃごちゃした感情により、やけに寒く、薄暗い帰り道に、いつもよりゆっくりの、少しとぼとぼとした歩みを進めていた

連は単純なので、さっき
「やる気が出てきた！次のテストは負けん！」
と言って、帰っていった

鳥居をくぐろうとした瞬間
バタッ
と、後ろから音が聞こえた、どことなく怖い感じがした
こんなことならもっと速く歩けばよかった

色々考えながら振り返ったら、そこには

二匹の狛犬の、ちょうど真ん中から、狛犬（台も含めて）と同じくらいのサイズの楕円をした青白い光が放たれていた

淡い光だが、存在感というか、威圧感というか、プレッシャーというか・・・
そんなような、つい見入ってしまう何かを放つそれが宙に浮いており、その前には、光から出てきたであろう女の子が倒れていた・・・

きれいな茶髪に琥珀色の目、１６０ｃｍくらいの身長にスリムな体型、つまりは貧乳・・・だが、整った顔立ち

通常の状態で出会ったら、見入ってしまっていただろう
だが今はそんなのんきなことができる状況じゃない

その女の子は倒れていて、服もボロボロなうえ、傷だらけなのだ
だが致命傷となるような傷は無いと思う・・・俺が見ただけでは判断できない
だが、生きていることは確かだ

「・・・・・て」
喋った気がするが聞き取れなかった、日本語じゃないのか？それだとどうしようもないな…
そんなことを思いながら耳を澄ましてもう一度言うよう、ジェスチャーと言葉をを送る

「た・・けて・・」
多分「助けて」と言っている

病院につれていった方がいいか？
そんな酷い傷にも見えないから家に連れ帰るか？

ここからは病院も遠いので、とりあえず家につれていくことにする

母さんになんて言おうか考えながら、女の子を背負い、振動を与えないように走る
父さんは単身赴任中だ

家に着く
とりあえず中に入る

「ただいま」

…

返事がない
不審に思い机の上に目を向けると、紙が置いてある

〈明日の夜には帰れるようにするから、今日はジャーの中のご飯と

鍋のカレーをあっためて食べてね〉

たまにある急に旅行のパターンだ

変な誤解をされると思ったが、なんとか杞憂に終わってくれた

「うぅ・・・」

俺の背中から声が聞こえる

「大丈夫か？」

「ここどこよ！あんた誰よ！降ろしなさいよ！」

俺はパニクっている女の子に、神社での出来事を話す

自分の体を見て、思い出したかのように話し出す

「とりあえず、あなたが助けてくれたのね？ありがとう」

「あぁ、誰でもそうすると思うが、俺が助けたぞ」

その後、女の子の置かれている状況を話され、俺は呆然とした

そして俺は世界を救うことになりそうだ・・・

第2話：神社（後書き）

感想、アドバイス等ありましたら、書き込んでいただけると嬉しいです

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3855z/

Messiah of Magician

2011年12月15日00時48分発行